

三溪園 梅のある景色

2022. 2. 25
島田 祥生



またまた急に思い立ち、出かけてみました。
「三溪園の梅」を狙ったのですが、「梅園」はなく、
梅の木を溶け込ませた庭作り。
大切な早春の主役。
しっかりと主張して「梅の三溪園」
見ごろが続きます。

外苑

明治39（1906）年、一般公開されたエリア。京都・燈明寺から移築された室町時代の建築・三重塔がランドマークとして配され、ウメ、サクラ、ハナショウブ・ハスなど、四季折々の花を中心に楽しめます。

「濱ともカード」を見せて200円で園内へ。正門を入れて左手の「大池」越しに、園の風景が広がる。丘の上に立つ三重塔は、京都木津川の燈明寺（廃寺）にあった室町時代建立のものを移築。右手には、蓮池。今はご覧の通りだが、初夏からは蓮の花が長く楽しめる。



臥竜梅

幹がクネクネと龍のような梅の木が並んでいる。

三溪園内で、ここだけが「梅園」
竜がこのような樹形から、この名があります。臥竜梅は、原三溪が支援した画家の下村観山の名作「弱法師（よわぼし）」（重要文化財 東京国立博物館所蔵）に架描かれた梅の木のモデルになったそうです。



旧燈明寺の本堂

築年：室町時代 康正3（1457）年
昭和62（1987）年に、三重塔と同じ燈明寺から移築。
手前の紅梅を狙ったのですが、逆光気味でした。



大池を正門の反対側までぐるりと回ってまず目につくのが、この白梅燈明寺本堂など、移築された建物群のエリアへの入り口にあたる。



紅梅越し、右手に「林洞庵」が見える。この紅梅、意外と白っぽい。



奥に見える「待春軒」に、名物の「三溪園そば」がある。汁はなく、具と混ぜ合わせて食べる。一緒に出てくる昆布茶は、そばにかけないこと。850円で楽しめる。



旧矢箆原家住宅
飛騨の三長者の一人と言われた矢箆原（やのはら）家の豪勢ぶりが伺える。白川郷にあった合掌造りの建物で、三階まで内部の見学ができます。

急げ急げ！ご馳走だ！群れを成して泳いでくる水鳥。お目当ては、茶屋に用意している棒苺。

鴨の群れかと思ったら、違う鳥。**キンクロハジロ**という渡り鳥。季節が進み、鴨と入れ替わったのでしょうか。

このカモは、目が金色、頭や背、胸、尾、翼の上面が黒、翼に現れる帯が白ということで羽白ガモ、合せてキンクロハジロとなったようです。潜水してエサをとると、ネットに。



内苑

原家が私邸として使用していたエリア。江戸時代初期に建てられた、雁行形に3棟が連なる外観の臨春閣を中心に、古建築で構成された繊細な作りの庭が広がります。



旧天瑞寺寿覆堂の先に、臨春閣に通じる橋「亭樹」の屋根が垣間見られる。臨春閣は左側の一棟が。



三溪記念館の前を通り、内苑に足を踏み入ると目に飛び込んでくるのがこの眺め。臨春閣の右側の二棟。



臨春閣の左側の二棟。その左手奥に、聴秋閣が見える。



聴秋閣

京都二条城内にあったといわれる、徳川家光・春日局ゆかりの楼閣建築

逆光で、ゴースト（光の玉）とフレアー（画面が白っぽくなる）がすごい。今回は、40年ほど前に愛用していたフィルムカメラのレンズを新しいカメラに付けている。白梅が、かすんでしまっている。

鞍馬石の踏み石

左2枚の写真にある踏み石は、鞍馬石踏み石として珍重されていた石で、これだけのものを揃えただけでも、三溪の財力が偲ばれる。一見の価値があります。

旧天瑞寺寿覆堂

豊臣秀吉が京都・徳大寺に母の長寿祈願のために建てさせた寿燈（生前墓）を納めるために建てさせた桃山時代の建物。



来園者によって滑らかになった石段。
「点滴岩をも穿つ」といいますが、これは、なんと表現するといいでしょうね。

春草庵

三畳台目（3.8畳ほど）の「小間」は、織田信長の弟有楽の作と言われる茶室。

緑萼梅（りよくがくばい）

内苑から海岸に通じる「海岸門」の外にある。厳密には、外苑。

海岸とは、間門の海。埋め立てるまでは、遠浅のきれいな海岸だったとのこと。



8 海岸 Coast

当時沖からこのあたりの陸地を望むと、海に向かって開く3つの並んだ谷、一之谷・二之谷・三之谷が確認できた。三溪園は、現在でも地名として残る、三之谷に造られたことによる名称である。

開港以降、横浜は多くの外国船が行き交う国際的な港として発展したが、そのすぐそばにありながらも三溪園界隈の海岸では昔ながらの漁や海苔の養殖などが依然行われ、日常の人々の生活風景がそこにあった。昭和30年代までは帆船の姿も見られた詩情豊かな海であった。



三溪園案内



20 三溪記念館 さんけいきねんかん

建築年：平成元(1989)年
 建築家：大江宏(1913~1989)の設計による展示施設。若き芸術家の支援や大震災後の横浜の復興など多方面にわたって尽力した三溪の業績やゆかりの資料・美術品などを紹介。茶席「望塔亭」、ミュージアムショップも併設しています。

茶席・望塔亭 ぼうとうてい

三溪記念館ロビーにある茶席。気軽に本格的なお点前(立礼スタイル)での抹茶(10:00~16:00)が楽しめます。

三溪記念館

三溪の業績やゆかりの資料・美術品などの紹介。
 茶席「望塔亭」、ミュージアムショップを併設している。

